

港湾振興便り



2018. 3月

第130号

:
目 次
*:**

1 ポートエッセイ

— 平昌五輪の新潟合宿組が好成績—
— 東京五輪も好機、各地で盛り上げを —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭 ～

2 トピック

- 東北クルーズ振興連携会議「クルーズシンポジウム」を開催
(東北地方整備局港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室)
- 茨城港常陸那珂港区中央ふ頭地区国際物流ターミナル現地着工式典及び見地見学会を開催しました
(関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所)
- 四日市港臨港道路(霞4号幹線)の愛称公表式が行われました。
(中部地方整備局 四日市港湾事務所)
- 「みなとオアシス東備(とうび)」が新たに登録されました
(中国地方整備局港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室)
- 高知港開港80周年・高知新港開港20周年記念セレモニー
(四国地方整備局 港湾空港部)
- 鹿児島港臨港道路整備事業(鴨池中央港区線)着工式を開催しました！
(九州地方整備局 鹿児島港湾・空港整備事務所)
- 佐世保港国際クルーズ拠点整備事業着工式を開催しました
(九州地方整備局 長崎港湾・空港整備事務所)
- 『北海道「北極海航路」調査研究会』を開催しました。
(北海道総合政策部交通政策局 物流港湾室)

:

1 ポートエッセイ

— 平昌五輪の新潟合宿組が好成績—

—東京五輪も好機、各地で盛り上げを—

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

:

数々の感動を生んだ平昌冬季五輪が先月25日に閉幕し、今月9日からはパラリンピックで熱い戦いが繰り広げられている。日本選手団が冬季五輪では過去最多の13のメダルを獲得したこともあって、日本中が熱気に包まれた平昌五輪だった。パラリンピックでも日本選手の大活躍に期待したい。

平昌五輪の開会中、新潟では日本選手への声援と同じくらい、新潟市で直前合宿を行ったロシアからのフィギュア選手に熱い応援が寄せられた。特に女子シングルのアリーナ・ザギトワ、エフゲニア・メドベージェワ両選手は新潟滞在時から大変な注目を集めた。

私が市長を務める新潟市では、小粒ながら氷の状態が良いアサヒアレックスアイスアリーナがあり、ロシアのフィギュアチームに絞って直前合宿などを誘致へ動いていた。新潟はロシア極東の3都市と姉妹提携しており、中でもハバロフスク市と半世紀以上、交流を続けてきた。ロシア語を話せる市民もいて、草の根交流も活発だ。

ロシアのフィギュア関係者がアイスリンクなどを視察。新潟での直前合宿が決まったが、その後ドーピング問題が起き、心配な状態が続いていた。ようやく個人での参加が決まり、ロシアからのフィギュア選手・役員ら32人が新潟合宿に参加した。

選手団は新潟空港から仁川空港経由で大会会場入りした。序盤のフィギュア団体が銀メダル獲得の原動力にもなったザギトワとメドベージェワの2選手は、団体戦の後、再び新潟に戻って最終調整をアサヒアレックスのリンクで行った。再び平昌に向かった2人は、女子フィギュアでザギトワ選手が金、メドベージェワ選手が銀メダルに輝いた。

新潟で素晴らしい仕上がりをを見せていただけに、2人のワン・ツーフイニッシュは当然の結果だったかもしれない。しかし、それまでのロシアからの選手は金メダルがなかっただけに、2人には大変な重圧が掛かっていたと思う。それに打ち勝った2人の演技は素晴らしく、群を抜いた出来だった。

嬉しかったのはショートプログラム(SP)の後、日本のマスコミに対し新潟での合宿の素晴らしさに触れてくれたことだ。ザギトワ選手は「温かいもてなしを受け、練習環境も素晴らしかった。おかげで五輪に向けて準備ができ、SPでの良い演技につながった」と新潟市を評価。

歓迎レセプションで新潟市西蒲区のミニトマト「天使の唇」を「おいしい、おいしい」と、いくつも食べてくれたメドベージェワ選手は「新潟の食は最高」、「合宿で自分が強くなったと本当に感じている」と新潟への感謝を語ってくれた。ザギトワ選手が新潟で見た秋田犬の写真にほれ込み、それを知った秋田犬関係者から秋田犬が贈られるという話題も大きく報道され、日本とロシアの縁が深まったのも嬉しかった。

帯同された役員やコーチ陣からも新潟合宿は高い評価をいただいた。今回の縁を今後も大切にすると共に、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでの合宿誘致に向けても大きな自信を得た。現在はフランスの格闘技系競技や野球の誘致に動いているが、さらに誘致の輪を広げようと考えている。

東京オリンピック・パラリンピックを東京だけが盛り上がる大会にはせずに、それぞれの地方が地域の特色を生かして、参加各国の事前キャンプや直前合宿などを誘致し、地域を元気にしていきたい。

:

2 トピック

*:

●東北クルーズ振興連携会議「クルーズシンポジウム」を開催

(東北地方整備局港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室)

平成30年1月31日に仙台市内において、「東北クルーズ振興連携会議」の平成29年度総会を開催しました。

総会後の「クルーズシンポジウム」では、平成30年にクルーズ船「MSCスプレディダ」の東北港湾への初寄港を予定している(株)MSCクルーズジャパン代表取締役社長のオリビエロ・モレリ氏を招き、基調講演を行っていただきました。講演の中でモレリ氏は、「今年、日本への配船を開始する同社のMSCスプレディダについて、更なる寄港地の拡大を検討している」と話し、東北への期待を示されました。

続いてパネルトークを開催し、パネリストからは、「外国人はもちろん日本人旅行者に対しても東北地域でのクルーズ観光をPRすることが重要」など、東北地域が今後取り組むべき方策が示され、クルーズ船が寄港することによる経済効果などを地元浸透させ、地域が一体となった受入活動を目指していくことが必要であることが確認されました。



オリビエロ・モレリ氏による基調講演



パネルトークの様子

●茨城港常陸那珂港区中央ふ頭地区国際物流ターミナル現地着工式典及び見地見学会を開催しました

(関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所)

茨城港(常陸那珂港区)は北関東地域の玄関口として経済・交流活動を支える重要な港湾であり、北関東自動車道の開通も相まって海上輸送の需要が増大しています。今後、建設機械及び完成自動車の取扱量の増加が見込まれており、既存施設だけでは利用に支障が生じることから、新たな国際物流ターミナル(水深12m)の整備に着手することになりました。

本事業により、建設機械及び完成自動車取扱台数の増加に適切に対応することにより、輸送コストの削減等が可能となります。また、隣接する国際物流ターミナルと一体的に利用されることにより、更なる利便性の向上が図られます。

当該事業の現地着手に合わせ、2月17日(土)、茨城港常陸那珂港区において国際物流ターミナル整備事業の着工式典を執り行いました。

式典では、菊地国土交通省港湾局長より主催者挨拶及び地元の国会議員をはじめ、茨城県知事、県議会議員、地元市村長や港湾関係者など多くの来賓の皆様にご臨席いただき、事業の安全かつ着実な推進を祈念しました。式典終了後には、現地見学会を実施しました。



菊地国土交通省港湾局長より主催者挨拶



鍬入れ式・くす玉開披の模様



現地見学会の様様



- 四日市港臨港道路(霞4号幹線)の愛称公表式が行われました。

(中部地方整備局 四日市港湾事務所)

2月7日(水)、四日市港ポートビル展望展示室うみてらす14において、四日市港臨港道路(霞4号幹線)の愛称公表式が行われました。

四日市港では、霞ヶ浦ふ頭へのアクセス向上や、周辺道路への環境負荷の低減、災害時の信頼性確保などを目的として、臨港道路(霞4号幹線)の整備を進めています。

霞4号幹線が地域の皆様に親しみや愛着を持って頂けるよう、愛称を一般公募したところ419件の応募をいただき、関係者からなる愛称選定委員会にて選定した結果、「四日市・いなばポートライン」に決定しました。

公表式では、愛称「四日市・いなばポートライン」とその選定理由の公表、表彰、記念撮影などが行われ、

名付け親となった安藤裕子さんに表彰状と副賞が授与された後、現地で記念撮影を行いました。

「四日市・いなばポートライン」は4月1日(日)に開通予定で、当日は開通式典の他、一般の方を対象としたウォーキングイベントを開催予定です。



表彰を受ける安藤裕子さん



現地での記念撮影



霞4号幹線（愛称「四日市・いなばポートライン」）

●「みなとオアシス東備(とうび)」が新たに登録されました

(中国地方整備局港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室)

平成30年2月25日(日)に「みなとオアシス東備」(岡山県備前市)が新規に登録され、中国地方では19箇所目(全国で105箇所目)のみなとオアシスとして活動を開始することとなります。

この登録にあたり登録証の交付式を同日、岡山県備前市の日生町漁業協同組合の市場である「五味の市」周辺の広場で開催された「ひなせかき祭」において行い、国会議員等来賓の方々からご祝辞を頂いた後、「みなとオアシス東備」の設置者である備前市長へ登録証を交付しました。

「ひなせかき祭」は例年、「みなとオアシス東備」の構成施設である「五味の市」周辺の広場において行われるもので、同日は焼きガキ体験やご当地グルメ、特産品などのブースが設置され、多くの来場者で賑わいました。



登録証交付(水谷中国地整副局長(左)から田原備前市長(右)へ)



記念撮影：右から洲本日生町漁業協同組合長、石井参議院議員、田原備前市長、浅輪大臣官房技術参事官、水谷中国地整副局長、濱田中国地整宇野港湾所長



焼きガキ体験



ご当地グルメブース

●高知港開港80周年・高知新港開港20周年記念セレモニー

(四国地方整備局 港湾空港部)

高知県の産業を支える重要港湾の高知港は、今年で開港80周年の節目の年を迎えました。また、外洋に面し、外貿や災害時の防災拠点の機能を果たす高知新港も開港20周年を迎えました。

これを記念して、2月16日に、記念事業実行委員会主催のセレモニーが200名を超える出席者のもと、高知市内で盛大に執り行われました。

高知港が開港した昭和13年以来、高知県経済は臨海工業地帯とともに高度経済成長期を経て急激な発展を遂げてきました。中でも高知県産業界の悲願であった高知新港の開港後、コンテナ取扱貨物量は年々拡大するとともに、近年ではクルーズ客船の寄港数も大幅に増加するなど、時代の流れに合わせながら成長を続けています。

今後は、発生が危惧される南海トラフ地震、津波への対策として、同港の耐震強化岸壁や背後地域を防護するために「三重防護」による海岸保全施設の整備が進められ、益々の発展が期待されます。



1946.12_昭和南海地震発生直後、高知市内が冠水



1992.03_世界最大級の長大ケーソン完成



1998.03_高知新港コンテナ第1船入港 (青島航路)



2017.12_荷役船3隻同時着岸
(手前からコンテナ船、バルク船、石炭船)



2018.2.16 記念セレモニーの様子



高知港全景

●佐世保港国際クルーズ拠点整備事業着工式を開催しました

(九州地方整備局 長崎港湾・空港整備事務所)

平成30年3月3日(土)に佐世保港国際クルーズ拠点整備事業着工式を開催しました。この事業は、佐世保港が東アジアに近い地理的優位性を生かし、カーニバル・コーポレーション&PLC社とともに日本に寄港するクルーズ船のゲートウェイ機能を有した拠点港として発展していくことを目指してクルーズ拠点(岸壁、泊地、駐車場、道路及び旅客ターミナル等)を整備するものです。

当日は、多くの国会議員の方々や朝長佐世保市長、中村長崎県知事、地元選出の議員の方々や港湾関係者など約100名の方々にご参加頂き、来賓の方々の祝辞、事業概要説明及び鍬入れ式が行われました。

また、同日、佐世保港クルーズ拠点形成協定締結式も行われ、佐世保港が外港クルーズ船の受入拠点の形成に向けて、また一つ歩みを進めました。



朝長則男佐世保市長の式辞



国土交通省菊地港湾局長の挨拶



鍬入れ式



協定締結式

●鹿児島港臨港道路整備事業(鴨池中央港区線)着工式を開催しました！

(九州地方整備局 鹿児島港湾・空港整備事務所)

平成30年2月25日(日)に鹿児島市内のホテルで、国会議員や各地方議員、関係団体の代表者約90名の方のご臨席をいただき、『鹿児島港臨港道路整備事業(鴨池中央港区線)着工式』を開催しました。

鹿児島港は種子島、屋久島、奄美諸島への離島航路や、沖縄航路、鹿児島湾内に就航するフェリー航路の基地港として機能しており、離島及び沖縄への生活物資や建築資材等の輸送拠点として、また地域における交通の結節点として重要な役割をはたしています。

本事業は、港内の円滑な交通を確保し、周辺道路の交通混雑を緩和することを目的として臨港道路(鴨池中央港区線)の整備を行うものです。

九州地方整備局鹿児島港湾・空港整備事務所では、工事の安全と周辺環境の保全に万全を期し、本臨港道路の一日も早い供用に向けて、地元自治体と一体となって全力で取り組んで参ります。



●『北海道「北極海航路」調査研究会』の開催

(北海道総合政策部交通政策局 物流港湾室)

2月22日(木)、北海道は『北海道「北極海航路」調査研究会』を札幌市内で開催し、道内の経済界や行政機関、港湾管理者など、関係者約60名が参加しました。本研究会は、平成24年度から開催しておりますが、今年度は初めて北海道大学北極域研究センターの国際セミナーと共同開催とし、「産学官連携による北極圏の持続可能な利用に向けて」と題して開催しました。

はじめに、3名の方から基調講演をいただきました。

ノルウェーのノード大学Center for High North Logistics(CHNL)のBjorn Gunnarsson博士から、北極海航路の将来展望として、航路の東西側において、通年で海水の無い状態で航行できる場所に積替港が存在する必要があること、産官学を中心に協力して経験や情報をシェアし合うことが重要であることなど、話がありました。このほか、出光興産(株)の高橋照之氏から「ノルウェーと北極域における日本の石油・ガス探鉱について」、ロシアの北東連邦大学のTuyara Gavriilyeva教授から「北極圏の先住民コミュニティと事業会社：規則と補償の実践」と題して、ご講演いただきました。

続いて、国土交通省総合政策局海洋政策課の野上主査から、「北極海航路の最新動向について」、苫小牧港管理組合港湾振興課の蠣崎主事からは、「苫小牧港における北極海航路の取組」と題して、ご講演いただきました。

また、北海道大学北極域研究センターの安部教授から、「北極海航路の実現可能性」、大塚教授からは、「北極海航路の持続可能な利用に向けて」と題して、研究の発表をしていただきました。

北海道では、引き続き本研究会の開催により関係者間の情報共有を図るほか、産学官の連携を図りながら北極海航路の利活用に向けた取組を進めていきたいと考えています。

